

企業局経営プランにおける令和6年度実績（自己評価）に対する意見

鳥取県企業局経営プラン評価委員会

【令和6年度実績評価】

項 目			委 員 意 見	評価区分の 見直し等
事業別事項	1 電気事業	①供給電力量 (CO2 排出量削減)	・ P F I ・ コンセッション方式による水力発電所の再整備工事を予定どおり完了するなど電力事業全体としての取組が進展しているものの、水力発電所のメインである佐治発電所及び新幡郷発電所が令和5年度から運転停止しており、その復旧に長期間を要したため、供給電力量は目標達成率 21%と極めて低水準であったことから、D評価が相当。	C⇒D
		②売電方法の見直し	・ 佐治発電所及び新幡郷発電所の運転停止により供給発電量は制約を受けたが、その他の発電所の電力について売電方法を工夫し、県内地域新電力会社に供給を行ったことは評価できる。	A
		③発電所リニューアル事業の実施及び検討	・ コンセッション方式を適用した、春米、小鹿第一、小鹿第二、日野川第一の4発電所について、令和6年度に再整備工事が完了し、運営権者による運営が開始されたことは評価できる。	S
		④経常収支比率	・ 台風被害、機器不具合により目標どおりの発電ができなかったことは、やむを得ない事象によるものであると認められるが、多額の純損失を計上し、経常収支比率の目標達成率も 46%と低水準であったことから、C評価が相当。	B⇒C
		⑤地域への貢献	・ 県民見学会の開催回数がコロナ禍前の水準に戻っていないものの、県民に関心をもってもらう取組を行っているとともに、小水力発電所の管理業務を地元自治会へ委託（継続）していることは評価できる。	B
		総括的事項	・ コンセッション事業の4発電所以外の直営発電所のうち、メインの佐治発電所及び新幡郷発電所が災害及び事故により運転停止しているため、厳しい評価結果となっている。企業局の総力を挙げてこの復旧・再運転開始に取り組むことが最重要課題である。	
	2 工業用水道事業	①新規需要開拓	・ 事業環境が厳しい中で、営業努力を行い新たにユーザー2社を確保したことに加え、既存ユーザーへの供給増量を行う等、成果を上げている点について評価できる。	S
		②施設の適正管理（日野川）	・ 漏水事前対策工事、老朽化した監視制御装置等の更新を行う等事業継続への基盤作りを積極的に行っている点について評価できる。	S
		③経常収支比率	・ 新規ユーザー開拓、既存ユーザーへの増量等、積極的な営業努力が実を結び、経常収支比率が大きく向上している点が評価できる。	S
		総括的事項	・ 商工労働部局等とも連携し、新規ユーザー開拓等を積極的に行い、成果をあげている点について評価できる。なお、巨額の配管更新工事が必要であるが、事業に最適の事業方式の検討を期待する。	
	3 埋立事業	土地の分譲	・ 未分譲地が少なくなっている中で、新たな契約先を開拓する等、営業努力が認められる。なお、賃貸から分譲への移行については、事業者に対して何らかの新たな支援制度が必要ではないかと考える。	B
	4 共通事項	人材育成と業務体制の効率化	・ 引き続き、経営感覚の育成に取り組んでいるが、ややマンネリ化が感じられるため、実地研修で人材育成すべき。 ・ 人材の採用や技術の継承等の課題が深刻化してくることも懸念されることから、人材育成と業務体制の効率化については、積極的に取り組んでいただきたい。	A

項 目	委 員 意 見	評価区分の 見直し等
総括的事項	令和6年度の電気事業では、3発電所の運転停止により、厳しい経営状況となった。発電所の再稼働については早期に復旧していただくことを期待する。また、工業用水道事業のバイパス管整備については、配水管の大規模更新を見据えて、民間活力導入等ベストのスキームを検討していただきたい。	